



19熊道第44号  
平成19年 5月 7日

国土交通省道路局長 様

熊取町長 上垣正 様



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付け、国道企第114号により依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。

## 道路整備の中期計画の作成に向けて

### ・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

1. 本町では、原子力発電施設等として位置づけられる原子燃料工業(株)の立地地域であることから、原子力災害等重大事故などへの備えとして、避難路や緊急輸送道路の整備が最優先課題である。
2. 安全・安心なまちづくりを進める上で、まちづくりの基盤となる道路の整備が急務である。

関西国際空港の開港に伴い急速な交通量の増加により、国道170号において慢性的な交通渋滞が発生しており、それらを避けるため生活道路に流入する車両が増加し、住民生活に著しい支障をきたしているのが現状である。

特に子供、老人等交通弱者の対策として、幹線道路の整備、交差点改良及び通学路を主とした歩道整備が急務である。

3. 今後のみちづくりにあたっては、景観や沿道に配慮をするなど、地域特性を生かしたみちづくりとして、行政と地域住民が一体となった価値観のある道路整備が望まれる。

### ・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

1. 事業の実施にあたっては、住民の理解と協力が得られるよう、取り組みを行うことが必要である。

今までのように、行政主導の整備計画でなく、その道路の持つ意味、その事業効果を十分にPRし、整備計画立案の段階から住民と連携した道路整備が望まれる。そのことにより、事業のスピードアップが図られ、計画的なスケジュールが図られると考える。

2. 既存道路の適正な維持管理

真の道路整備として、防災面や安全対策、渋滞対策のための、新設道路も重要であるが、既存道路の計画的な維持管理が必要である。

### ・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

本町独自意見となるが、本町においては、町の将来像を“ひと”と“自然”にやさしい「健康文化都市」と位置付け、その実現に向け、計画的な道路整備事業の推進を図っているところです。

しかしながら、まちづくりの基盤となる道路については、予想を上回る交通量の増大と整備の遅れから、交通渋滞が発生し、生活道路にまで通過交通が流入するなど住民生活に著しい支障をきたしている状況となっている。

その解決のためには、都市計画道路「大阪岸和田南海線」・「泉州山手線」をはじめとする広域幹線道路の整備とともに、住民生活に密着した町道に至る道

路網について、防災・環境・高齢者等の利用等に配慮した整備促進が急務となっている。

とりわけ、都市計画道路「大阪岸和田南海線」においては、今後も引き続き、その事業用地の取得事務を大阪府より受託し、早期完成に向け鋭意取り組んでいくが、都市計画道路「泉州山手線」については、関西国際空港関連整備事業として位置づけられていることや、関空第2滑走路が本年8月に供用開始されることにより、本町を含めた周辺地域の活性化を図るうえでも、本路線の必要性が一層高まっている。又、「国道170号の計画4車線化の整備」についても同様で、機会あるごとに大阪府に対し、この2路線が「大阪府都市基盤整備中期計画（案）」に組み込まれるよう働きかけている。

地域の活性化のための道路整備を計画的に進めることは重要な課題であるが、大阪府及び本町においても財政状況が厳しく、膨大な事業費が必要となる道路事業について、その財源確保に苦慮しているところです。よって、国においては、地域の活性化に資する道路整備を強力に推進するため、必要となる財源の確保と地方への重点的な配分に努め、真に必要な道路整備を遅らせることがないよう支援されることを強く望むところである。

#### 参考資料

- ・ 昨年10月の大阪国道事務所からの意見把握資料
- ・ 道路整備の推進及びその財源確保に関する意見書
- ・ 原子力発電施設等立地地域の振興に関する計画
- ・ 国、府要望書